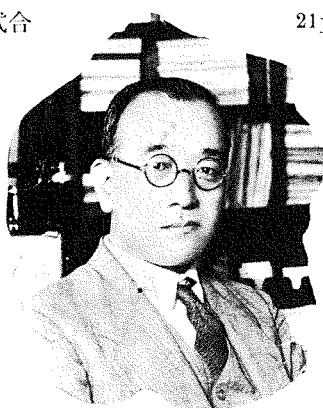


(1)
丹那隧道熱海口附近

★世界的難工事★ 丹那隧道完工す

大正七年四月一日鐵道工業株式合資會社の手によつて熱海口に同じく七月十五日より鹿島組によつて大竹口に着手して以來十有七年の星霜と工費 3,000 萬圓を費した丹那隧道は延長25,614 呎を費き、昨年六月十九日先づ水抜坑の貫通を見て勝利の凱歌を擧げて以來銳意完工に向つて努力中の處、此程愈々完成し、十月一日より列車の試運轉を行ひ十二月一日には一般列車の開通を見る運びとなつた。

顧ればこの十有七年は實に惡戦苦闘の十七年と云ふべく、大正十年四月には熱海口に於て三十三名が生埋めとなり十六名の生命を奪はれ、十三年には大竹口の斷層によつて十六名の溺死者を出し、復舊に16ヶ月を要し、十四年五月には同大竹口に於て毎秒

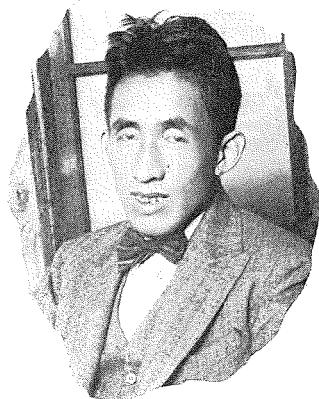


鐵道省熱海建設事務所長

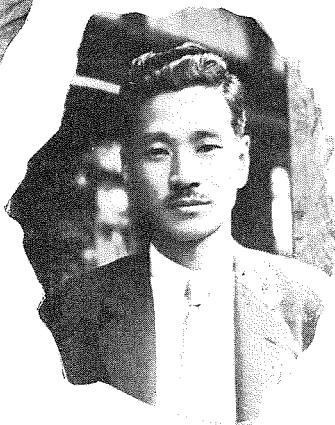
高井信一氏

21立方尺の大湧水ありて復舊に44ヶ月を費し、同年十二月熱海口の斷層事故では復舊に42ヶ月を要し昭和五年六月には丹那大斷層に遭遇して復舊に34ヶ月をとられ、北伊豆大地震では中心線に喰違が生じて断層鏡面を顯し、大竹口にては三名の犠牲者を出す等工事に携つた從業員諸氏の勞苦は眞に想像の限りではなかつた。

此間大正十四年頃この工事が意外の難工事とわかるや世は擧げて丹那隧道の貫通を疑ひ著名なる一外國技師は「日本の技術を以てして之を征服する事は不可能だ」とまで斷言し、計畫の無暴なじるもの、工事の中止を要求するもの等當局に對する非難の聲はごうごうとし巷に満ちたのであつた。

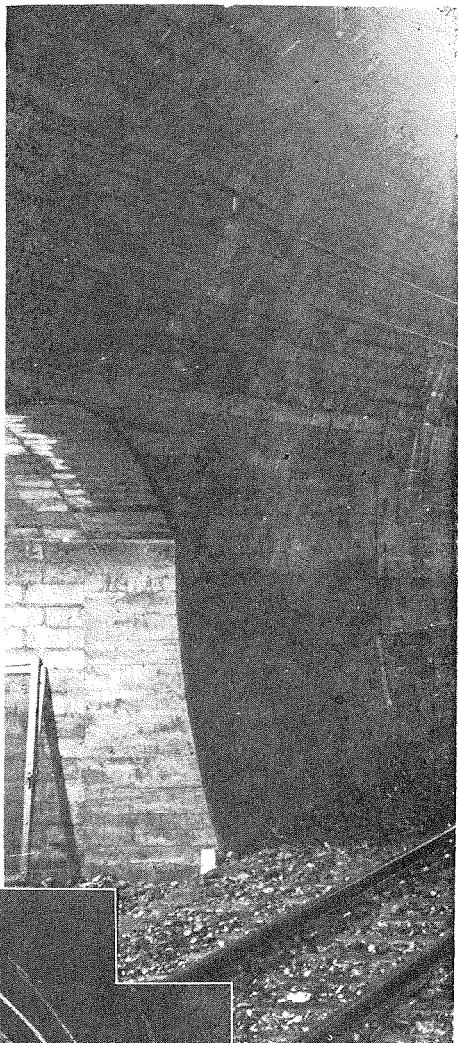


鐵道省熱海建設事務所
鐵道技師
石川九五氏

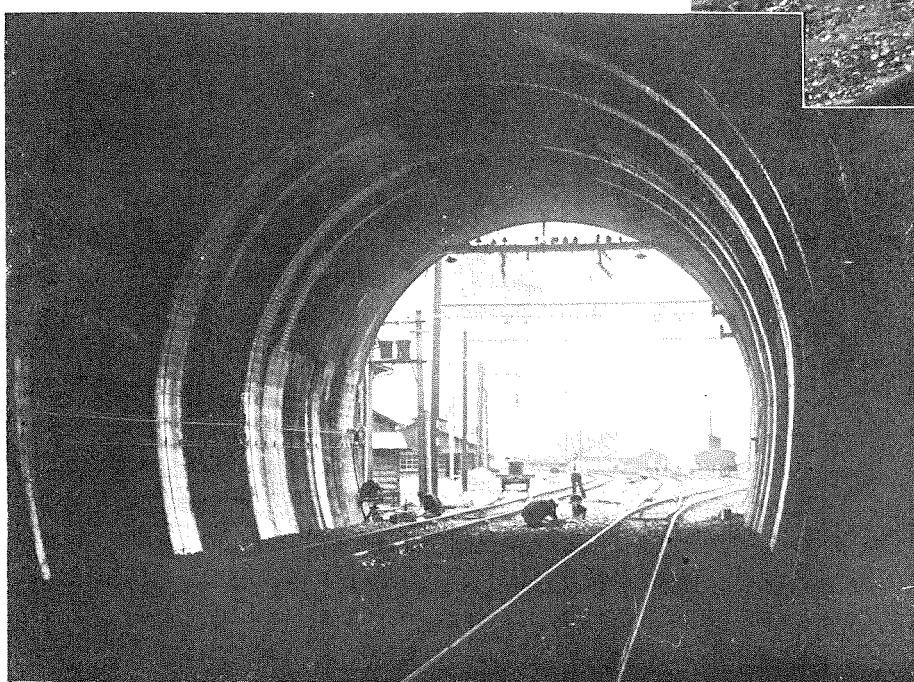


鐵道省熱海建設事務所
庶務主任
鳥居秀夫氏

(3・丹那隧道中央部)



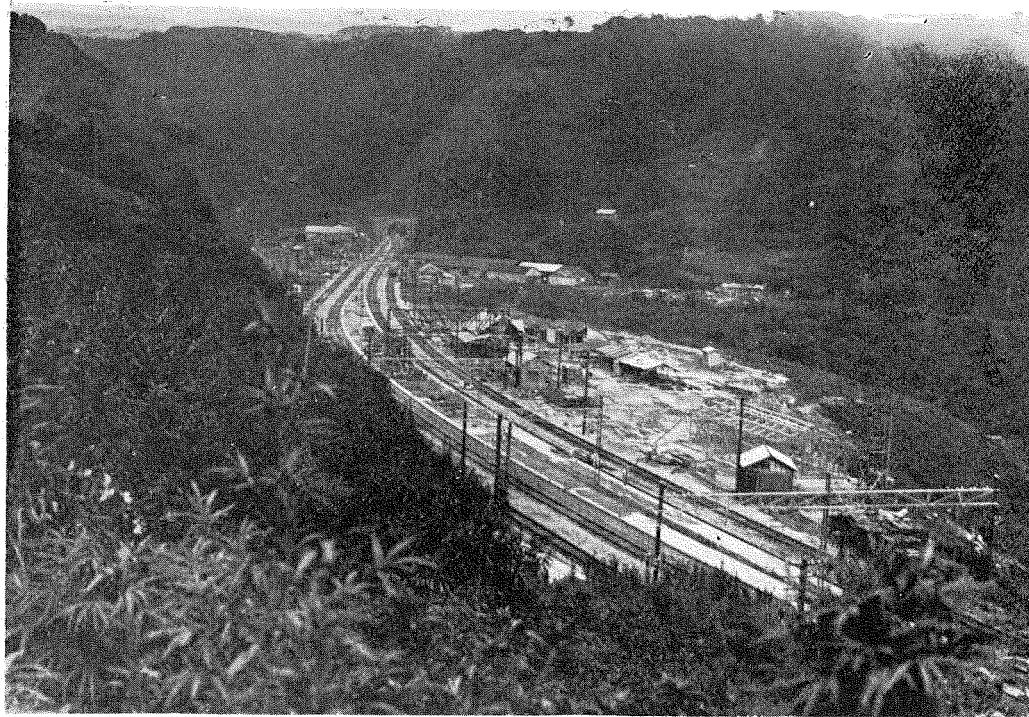
(2・丹那隧道熱海口)





(4) 丹那隧道大竹口





(5) 丹那隧道道大竹口附近

然も我鐵道技術家は飽くまで貫通を信じ、堅忍不拔の精神を以て工事に當り、惡戰苦闘十七年、最新科學と技術の粹を凝らして尚足らず肉彈に積む肉彈を以てし六十三の人柱を以て地殻を碧血に染めたが、其功は遂に酬ひられて、今日の成功を收め得たのである。丹那隧道開鑿史は誠に悲壯なる一巻の繪巻物であると同時に、我國の土木技術の優秀と進歩を全世界に確認させた點に於て、我鐵道技術は全世界をほふつた凱旋將軍と同様の賞讃を受けてよいであらう。

丹那隧道の開通により、東海道線は箱根の現在線より 7.2 咩短縮され、最急勾配に於て現在の 40 の分 1 が

新線では 100 分の 1 となり、勾配の延長を 5 咩短縮される事になる。

また現在の東海道線の最高地點御殿場は海拔 1,241 咩であるが、新線では最高丹那隧道に於て僅か 259 咩に過ぎない。

現在線の國府津沼津間の運轉時間は大體に於て特急 60 分、普通急行 95 分、その他 105 分であるが、新線によれば特急 15 分、普通急行 35 分、その他 35 分乃至 40 分を夫々短縮することになる。

